

2月12日(金)～14日(日)の3日間、浦添市教育の日関連事業「まなびフェスタ2010」が浦添市てだこホールおよび市立図書館、市民体育館等、市内各施設で開催されます。まなびフェスタは、生涯学習を実践している多くの方々から学んだことの集大成として展示や発表会を行い、学ぶことの楽しさを感じることができるイベントです。また今回は浦添市市制施行40周年記念事業の一環でもあり、例年以上に多くのイベントが予定されていますので、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

浦添市市制施行40周年記念
浦添市教育の日関連事業
～集えまなびすと！11万の太陽パワー～
まなびフェスタ浦添2010

開会式：2/13(土) 午前9時 場所：てだこホール
牧港ひまわり幼稚園によるオープニングアトラクション

会場	2/13(土)	2/14(日)	その他催し物	
てだこホール	大ホール	☆那覇地区公立幼稚園会浦添ブロック子どもフェスティバル 午前9時30分～正午 ☆平成21年度浦添市教育委員会表彰式 午後2時30分～5時	☆浦添市子ども文化連盟 “太陽樹”「太陽の継承」 午後3時～4時30分	生涯学習パネル展 2/5(金)～2/18(木) 市役所1階ロビー
	小ホール		☆浦添市放課後子ども教室舞台発表 午後1時～5時 ※多目的室にて同時刻に作品展示	
	市民交流室	☆楽しいボーイスカウト浦添2・3団活動紹介 午前10時～正午 ☆救急法講習(消防) 午前10時～午後1時	☆みんななで育む学童保育まなびフェスタ 午前9時30分～午後0時30分	就活応援リレートーク「仕事チカラ」 就職活動中の女子を対象にしたリレートークを開催します。 2/13(土) 午前10時～正午 ハーモニセンター(ホール) 進行役 浦崎美智子 キャリアコンサルタント リレートークメンバー(参加予定企業) ・サンエー・沖縄銀行・沖縄電力 ・りゅうせきネットワーク会議 ※図書館による「就活情報コーナー」があります。
	マルチメディア室		☆NTTドコモ「ケータイ安全教室」 午後1時～1時50分	
市立図書館	☆本のリサイクル広場 ※12日から 午前9時30分～午後6時30分 2階視聴覚室 ☆としよまる公開展示 午前10時～11時30分 市立図書館前広場 ☆おはなしの部屋 午後3時30分～4時 1階おはなしコーナー	☆閉架書庫開放 午前10時～11時 閉架書庫 ☆おはなし会 午後3時30分～4時30分 2階視聴覚教室		
市民体育館	☆第32回沖縄青少年科学作品展 午前10時～午後5時	☆第32回沖縄青少年科学作品展 午前10時～午後5時		

問い合わせ 生涯学習振興課 ☎876-1234 (内線6061)

平成21年度 浦添市文化芸術振興事業 「浦添市教育の日」関連事業
第15回浦添市小中学生音楽祭

市内小中学校7校と、1月16日に行われた「公開オーディション」で選抜された8名の子ども達が日頃の練習の成果を披露します。皆様のご声援をよろしくお願いいたします。

日時 2月20日(土)
開場 午後1時30分 開演 午後2時
会場 浦添市てだこホール 大ホール
入場料 無料

ゲスト団体
浦添ジュニア
ストリングス



【出場校】 浦添小・浦城小・宮城小・沢岷小・前田小
浦添中・仲西中
【出演者】 仲本理香子・池原寿夏・平安名まなみ・宮里奈実
高良理沙・池原慎之佑・佐藤麻奈・宮川夕季

問い合わせ 文化課 ☎876-1234(内線6211)

浦添市教育の日関連事業
第24回公民館まつり

中央公民館では、サークルとして日頃から様々な学習活動を行ったり、趣味を楽しんでいる市民の皆さんの成果発表と交流の場として公民館まつりを開催します。書道・絵画・生け花・陶芸・和裁などの展示・販売部門や、コーラス・楽器演奏・踊り・健康体操・太極拳などの舞台部門、また飲食部門のおやつの販売などお子さんから大人まで、皆さんが楽しんでいただける催しをたくさん予定しています。ぜひご家族・お友達を誘って遊びに来てください。

日時 2/20(土)
午前10時～午後9時
午前10時開会式・アトラクション
展示発表・舞台発表
ダンスの集い・飲食サービス

日時 2/21(日)
午前10時～午後4時
舞台発表・展示発表
飲食サービス

問い合わせ 浦添市立中央公民館 ☎876-1234(内線6661)



2009うらそえYA文芸賞受賞作品

先月号に引き続き、2009うらそえYA文芸賞受賞作品を紹介いたします。今回は、体験感想部門で煌賞を受賞された宮田さくらさんです。

体験感想部門 煌賞

「こころを読んで」

宮田 さくら

書名「こころ」夏目漱石著 新潮社

私は最近まで夏目漱石や太宰治など、「文豪」と呼ばれている人が著した昔の文学を読んだことがなかった。本を手にとって冒頭から終わりまで読むのは夏目漱石の「こころ」が初めてになる。

私はこの本を読み始めてから途中で何度も挫折しそうになった。昔の小説は言葉遣いが今よりも硬く、現代文ばかり読んでいた私にとって、とても読みづらかったからだ。それでも私が前に前に読み進めていったのは「こころ」の中にどこか、現代の私達に通ずる部分が多くあったからである。

人間の心の三毒素として「ねたむ」「怒る」「くちむ」というものがある、と書かれた文章を最近私は読んだ。どの三つも自分が感じたことのある感情であったから、今

でも印象に残っている。この三つの感情は、人間は皆何度か感じたことのあるものだと思ふ。「ねたむ」、「怒る」、「くちむ」は日常的な生活の中にひょっこりと現れてくるからだ。私は今年中学三年生になり、その三つの感情を主に学校生活や部活動の中で感じるようになった。何かが上手くいかなくなったり、他人と自分を比較したりして自分に対する劣等感を味わったり、思い返せばいろいろな場面でこれらの感情が出てくる。

この三つの感情はこっちゃこちゃとしていて、自分でもどのよう整理していいか表現していいか、わからないものだ。私はこの三つの感情を抑えきれなくなってしまう自分がある。三つの感情に支配されていってしまう時の私の心は、時に

は予想もつかないくらい「悪」になってしまう。「こころ」の最終章には、このような感情に支配されてしまう時の人の「心」の様子が細かく描写されている。私にとって共感してしまうものも多かった。特に私が共感したのが「平生はみんな善人なんです。みんな普通の人間なんです。それが、いざという間際に急に悪人になるんだから恐ろしいのです。だから油断できないんです」

これは、きっとたくさんの方が共感した部分の一つだろう。この部分を書いた時の夏目漱石も、この部分を読んだ時の当時の読者も現代の読者もきつと共感せざるを得ないだろう。なぜなら、人間の心の三毒素というものが生まれる瞬間が鋭く表現されているからだ。

夏目漱石は一九一四年にこの作品を書いている。今から九十五年前になる。すごい時間の差だ。あと五年も経てば、一世紀前と言われる。そんな昔の作品なのに現代人の私はするりと小説の中に入りこみ、多くの部分で共感してしまう。夏目漱石という九十五年前の作家が描いた作品に思わず夢中になってしまふ。どうしてこんなに共感したり、夢中に

なってしまうのだろう。

それは、この作品が人間の心をとらえたものだったからだ。今も昔も、人間の数だけ心は存在し、何十、何百、何億もの感情が地球を飛び交う。人の心から、自分の感情から学ぶたくさんの出来事があり、それは絶えず続いていく。九十五年前も、今もそれは変わらないことを、この作品は証明している。私は、ついこの間まで避けてきた昔の文学を読んだことで、遠かった時間の壁を越えたような気がした。

私が今年こそ昔の文学を一冊だけでもいいから読みこもうと決心し、数多くある昔の文学の中から「こころ」を選んだのに特別な理由は題名に強くひかれたからだ。「こころ？なんで心じゃないんだ？それにこころって題名をなんでつけたんだ？」そうといった疑問がたくさんでてきたからだ。

私は小さいころよく、「どうしてこころは目でみえないの？」と両親に聞いていた。題名を見た時、その時の感情と似たような感情を感じた。懐かしいような切ないようなものを感じた。そして私はいつのまにかこの本を手を取っていた。

小さい頃、人間の体のどこ

INTERVIEW



宮田さくらさん (昭和薬科大付属中3年)

小さい頃から母の影響で本が好きになり、1週間に2～3冊は読んでいます。「こころ」は学校の図書館で見たこととはありましたが、中3になり本屋さんで目にして読んでみたいと思いました。これからは、今までに読んだことのないジャンルに挑戦し、エッセイなども読んでみたい。

※うらそえYA文芸賞についての問い合わせは 浦添市立図書館 ☎876-14946